平成22年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書 提出日 2011年12月12日		
氏名：佐藤（旧姓 永田）晶子	実施国：タンザニア	調査研究
活動名称	タンザニア農村部での母親の新生児ケアに関する調査	
実施期間	平成22年8月～平成23年12月	

（1）計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

現地調査は計画どおりに終了した。その後のデータの分析等の段階では、データ入力・分析や修士論文作成に計画以上に時間がかかったため、スケジュールが大幅に遅れている。また、収集したデータを分析した結果、研究のテーマを「新生児をもつ母親の健康行動」へと変更した。報告書は平成23年12月まで、論文投稿は平成24年3月末までに終了する予定である。

（2）実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

研究の結果に関しては、別添資料の研究報告書を参照願います。申請書に記述した期待される成果3点のうち、現時点で達成されているものは、１つ、公衆衛生修士の学位取得である。その他2点の成果、目的調査地保健行政局への報告書や英文学術雑誌への投稿は、学術研究としてまとめる行為が私自身にとって初めてであったため、作成自体だけではなく指導教官や英文校正等にも時間がかかっている。平成23年11月に国内の民族衛生学会総会で研究の報告を行い、国内研究者との意見交換を行った。

村人と木陰

新生児と母親

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？ または実施事業に対する一般の反響は？
母子の健康向上はタンザニア社会の中でも重要な課題の一つとして広く認識され、現地調査を進めるに当たり様々な組織・人々からの支援を受け円滑に進めることが出来た。例としては、地区の行政事務所の責任者が調査中3か月間事務所内村代表室（その地区4村の代表が共同で使用する部屋）の机の一つを調査用に提供して頂いたこと、調査対象者であった出産後の女性・地域の保健ボランティアメンバーからは、子どもの健康向上のためと研究目的を理解、信頼して頂き、ほぼ全員から回答を得ることができたこと等である。
(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）
現地調査中、村の健康ボランティアや調査地で子どもの保健医療プロジェクトを行っている他国NGOスタッフと集まった地域の住民の健康行動・周産期の母子保健医療サービスの受診行動の調査結果データをもとに意見交換を行い、この結果は今後の彼らの活動に活かされると考えられる。また、今後タンガ市保健行政局への報告により次年度の母子保健プランに対するインプットとなることが期待できる。そして、私自身の国際保健分野の研究スキルを高めることができ、今後開発途上国の健康開発分野で実務・研究を続けるための第一歩を踏み出すことが出来た。 最後に、協力隊を育てる会殿に助成していただき、調査を終えることが出来たことに感謝いたします。